

緑友会だより

『老人(シニア)クラブの歩み』

南緑友会会長 根本 暉

新型コロナウイルス感染症は、発生から3年目に入っても、期待されている終焉の兆しはつきりせず、不安な日々を強いられています。国内の累計感染者数は約800万人に達し、更に直近では感染力がより強いと言われる新型コロナウイルスの置き換えが、70%を超えたとも言われており、感染第7波の襲来も懸念されています。

このような現状に鑑み、2022年度南・北緑友会定期総会は3密(密閉・密集・密接)を避けるため昨年度同様『書面表決』で議決することと致しました。本件実施に際しましては、皆々様の深い御理解と御協力を賜り誠に有難うございました。表決の結果は、全ての議案について、原案通り承認頂きましたことを御報告申し上げます。

さて、今回は横浜市の『老人(シニア)クラブの歩み』について、少しだけ振り返ってみたいと思います。

『老人(シニア)クラブの歩み』の起源は、長寿を祝う平安時代の『尚齒会』(しょうしゆのえ、しょうしかい)に由来し、さらには仏教伝来とともに日本に伝わったとされる相互扶助組織『講』にまで遡ることが出来ます。

その後、明治26年博多高砂会(福岡県福岡市)、明治40年楽寿老人会(京都府亀岡市)、大正14年上田地区老人会(熊本県小国町)が設立され、現在の老人クラブの基礎が築かれました。

戦後荒廃した社会において、老後の幸せは自らの手で開こうとする先覚者たちが、老後に不安を感じている老友や、老後の問題に関心を寄せる人々に呼びかけ、全国各地で次々に老人クラブを結成していきました。

『老人クラブ草創期 1940～1960年代』

昭和31年：横浜市鶴見区生麦第2地区に、『としよりクラブ』市内最初の老人クラブ発足

昭和37年：横浜市内各地で老人クラブ結成(110クラブ)

昭和38年：横浜市老人クラブ協議会発足

(同年) 横浜市老人クラブ連合会と改称

『クラブ拡大と活動発展期 1970～1980年代』

昭和45年：横浜市老連を財団法人に改組

昭和46年：友愛チーム結成(14区：14チーム)

昭和51年：老人福祉大学講座開講

昭和55年：第1回ゲートボール大会開催

昭和57年：第1回老人クラブ大会を開催

『21世紀に向けた展開期 1990年代』

平成5年：第1回ベタング大会開催

平成6年：市老連女性委員会発足

平成9年：第1回グラウンドゴルフ大会開催

平成10年：『生きがい作業事業』を『いきいき活動事業』に転換

平成11年：区老連事務局を自主運営に

『新たな課題への挑戦期 2000年代』

平成20年：横浜市老連友愛活動制度として開始

平成24年：横浜市老連を公益財団法人に改組

平成27年：横浜市老連の愛称『かがやきクラブ横浜』に決定

令和元年：市老連行動計画2020～2024年策定

発行責任者 緑園南・北緑友会
南)会長 根本 暉
北)会長 大野恵美子
編集責任者 大沼 敏章
編集者 大沼 敏章
Tel 045-811-1580



『老人クラブの歩み』の概略は以上の通りですが、ご参考までに老人クラブの目的や性格、活動目標などについて簡単に触れたいと思います。

① 老人クラブの目的

老人クラブとは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織として、仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、『生活を通して、生きがいと健康づくり』

うとともに、その知識や経験を生かして、地域の諸団体と共同し、『地域を豊かにする社会活動』に取り組み、明るい長寿社会づくり、保健福祉の向上に努めることを目的としています。

② 老人クラブの性格

1) 自主性、地域性、共同性を有する

老人クラブは、高齢者が自主的に仲間づくりを進め、それぞれの地域の実態に即して小地域ごとに組織づくりをし、高齢者が共同して相互に支えあい、楽しみを共にすることを基本とする。

2) 総合的な展開と多様な活動形態をとる

③ 活動目標 『全国三大運動(健康・友愛・奉仕)』

老人クラブでは、発足当初からそれぞれの地域において、高齢者の健康保持・増進、相互の支え合い、住みよい地域づくりに取り組みしてきました。これらの取組を組織的に推進しようと呼びかけたのが、『健康』『友愛』『奉仕』の全国三大運動で、昭和61年から開始しています。(出所 かがやきクラブ横浜『単位老人クラブの手引き』)以上

『新年度を迎えて』

北緑友会会長 大野恵美子

今年度も昨年と同様にコロナウイルス感染症予防のため定期総会は書面表決で議決することになりました。今回も会員皆様のご協力のもとに無事に実施できました。ありがとうございました。

緑友会もコロナ感染症予防のためほとんどの活動・行事をいつも通りにできない状況です。最近ではコロナの新規感染者数も少し減少しています。少しずつ社会も動き出し、活動ができるようになるのではと思っています。

健康に暮らすためには人との交流、適度な運動が大事です。でも多くの人が集まり交流の場をもつシニア活動ができにくい状況です。家に閉じこもりがちになり、体力も低下し、フレイル(加齢により心身が衰える状態)のリスクも高まります。また、認知症になる高齢者が増加するなど問題も多くあります。緑園地域もますます少子高齢化が進みます。元気で自分の足で歩いて楽しく生活するために筋力をつけましょう。

各公園での『みんなでラジオ体操』が開催されます。ラジオ体操は全身の筋肉をバランスよく使う体操であり誰でも知っている身体を動かすことができ、ぜひ近くの公園でラジオ体操に参加して交流の場も広げていってくださいます。健康で楽しい人生にしましょう。以上

南・北緑友会定期総会 『書面表決結果』

(2022) 令和4年度

今年も定期総会は書面表決にいたしましたので結果を本誌でご報告いたします。表決の結果原案通りのご賛同が97%強。従って承認可決いたしました。なお、お配りした議案書の新年度役員、班長、事業計画及び予算のそれぞれの『案』を正規と読み替えてください。

2022年度南・北緑友会定期総会(書面表決)の結果報告 表決結果

区分	報告及び審議事項	承認する	承認しない
南緑友会	①号議案 2021年度事業・活動報告	32	0
	②号議案 2021年度決算報告	32	0
	③号議案 2022年度事業・活動計画(案)	32	0
	④号議案 2022年度予算(案)	32	0
	⑤号議案 2022年度役員・班長	32	0
	回答数 会員数 32名	32	0
北緑友会	①号議案 2021年度事業・活動報告	35	0
	②号議案 2021年度決算報告	35	0
	③号議案 2022年度事業・活動計画(案)	35	0
	④号議案 2022年度予算(案)	35	0
	⑤号議案 2022年度役員・班長	35	0
	回答数 会員数 37名	35	0
合計	会員数 69名	67	0
参考：回答率		97.10%	

【新役員】
南緑友会 (以下敬称略)
会長 根本 暉(再任)
副会長 吉沢 逸男(再任)

北緑友会
総務 大沼 敏章(再任)
会計 桂 正洋(再任)
監査 長谷川 幹夫(再任)
総務 大野恵美子(再任)
副会長 真島 昭勝(再任)
総務 川口 美江子(再任)
監査 神野 芳子(再任)
監査 下野 純夫(再任)
監査 薄井 純夫(再任)

【新任役員】
南緑友会
① 小林 誠七(再任)
② 吉沢 逸男(再任)
③ 中村 英子(再任)
④ 川口 英子(再任)

北緑友会
① 神野 行雄(再任)
② 兼川 美江子(再任)
③ 兼川 美江子(再任)
④ 兼川 美江子(再任)
⑤ 兼川 美江子(再任)

【役員退任】
北緑友会
④ 堀田 長司

【退任された方】
板橋 洋子(南緑友会③)
大澤 治子(南緑友会④)
村上 建治(南緑友会④)
平井 宏一(北緑友会④)
佐治 和修(北緑友会④)
金井 澄子(北緑友会④)
坂堂 澄子(北緑友会④)

【退任された方】
退任された堀田様には在任中のご活躍に心から感謝申し上げます。残念ながら該当者はおられません。

【新入会員紹介】(一月以降)
会員の異動(令和四年一月以降)

【緑友会の主な活動(一月以降)】
「長い間大変お世話になり、皆様と一緒に楽しい時をすごさせていただきました。これから皆様にご迷惑をおかけすることはありませんのでお別れさせていただきます。楽しい思い出を胸に納めておきます。皆様もお身体を大切に、失礼いたします。」以上

